コミュニティスポーツに関する一考察 その2

——各年令層に対するコミュニティスポーツ政策——

新　谷　崇　一

Ⅰ　は　じ　め　に

研究（その1）では，個人の内的条件から，特に1週間のスポーツ活動時間が0～30分の男女と，育児，家事労働がスポーツクラブ加入及びスポーツ活動の障害となっている女性を対象としてコミュニティスポーツ政策（以下C.S政策と略す）を展開した[1]。

（その1）は対象者を限定してのC.S政策であったが，本研究（その2）は蓬莱町を構成している18才以上65才以下の男女のスポーツ意識，スポーツ活動の実態を全体的な立場から把握し，特に各年令層に対するC.S政策を展開して福島市蓬莱町居住者のスポーツ実態調査に対するC.S政策のまとめとしたい。

蓬莱町は福島市のベットタウンとして昭和45年から第一期分譲が始まり，現在も開発の途上にある。人口は男子5,654人,女子5,707人で総数11,361人にまで達し,これは福島市の人口266,394人に対して約4.3%にあたる[2]。

また，本研究の対象となった18才以上65才以下の人数は表Ⅰ-1の通りであるが，これは蓬莱町全体に対して男子55.9%，女子58.9%にあたる。その他0～17才までの男子42.0%，女子38.2%，66才以上の男子2.1%，女子2.9%から構成されている[3]。

本研究（その2）の各年令層に対するC.S政策を展開するにあたって，その年令層を男女とも18～29才，30～39才，40～49才，50～65才の4層に区分し,また必要に応じて,男女とも30～39才の年令層を30～34才，35～39才と細分した(表Ⅰ-2)。

その結果，蓬莱町の18才～65才の年令層別人数と，抽出された被調査者の年令層別人数の割合は図Ⅰ-1からわかるようにほぼ同じパーセンテージを示している。このことから，本研究の各年令層に対するC.S政策は,そのまま蓬莱町全体のC.S政策へ共通するものと考えられる。

表Ⅰ-1　蓬莱町18～65才の性別,年令層別構成数

M＝3,160名　F＝3,363名

年令	18 ～ 29才		30 ～ 39才	
MF	M	F	M	F
人	682	883	1304	1406
%	21.6	26.3	41.3	41.8

内訳	18～24才		25～29才		30～34才		35～39才	
MF	M	F	M	F	M	F	M	F
人	322	378	360	505	712	805	592	601
%	10.2	11.2	11.4	15.0	22.5	23.9	18.7	17.9

40 ～ 49才		50 ～ 65才	
M	F	M	F
804	700	370	374
25.4	20.8	11.7	11.1

40～44才		45～49才		50～54才		55～59才		60～65才	
M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
497	440	307	260	185	155	111	119	74	100
15.7	13.1	9.7	7.7	5.9	4.6	3.5	3.5	2.3	3.0

表Ⅰ-2　被調査者の性別，年令層別構成数

M＝180名　F＝192名

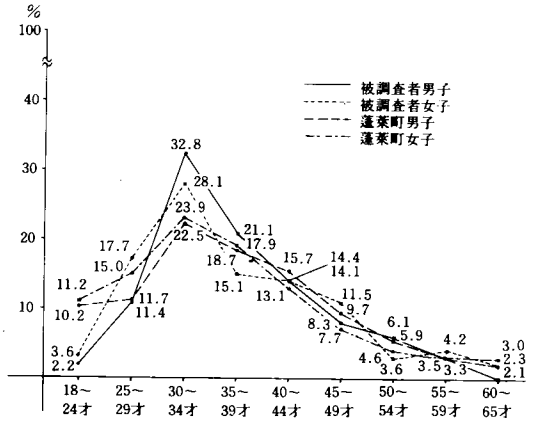
年令	18 ～ 29 才		30 ～ 39才	
MF	M	F	M	F
人	25	41	97	83
%	13.9	21.4	53.9	43.2

内訳	18～24才		25～29才		30～34才		35～39才	
MF	M	F	M	F	M	F	M	F
人	4	7	21	34	59	54	38	29
%	2.2	3.9	11.7	17.7	32.8	28.1	21.1	15.1

40 ～ 49才		50 ～ 65才	
M	F	M	F
41	49	17	19
22.8	25.5	9.4	9.9

40～44才		45～49才		50～54才		55～59才		60～65才	
M	F	M	F	M	F	M	F	M	F
26	27	15	22	11	7	6	8	0	4
14.4	14.1	8.3	11.5	6.1	3.6	3.3	4.2	0	2.1

図Ⅰ-1　蓬莱町と被調査者の年令別人数比



次に蓬莱町の運動空間及びそれに伴う運動施設は以下の通りである。

蓬莱管内の面積は7.36km²になり[4]，そのうちの蓬莱町には表Ⅰ-3のように分譲住宅，県営アパート，市営アパートが大半を占めている[5]。

表Ⅰ-3　蓬莱町の世帯数

昭和58年7月31日

	世帯数	男(人)	女(人)
分譲住宅	1,575	2,888	2,993
市営住宅	691	1,153	1,220
県営住宅	827	1,441	1,413
公社アパート	29	53	44
東北ムネカタ寮	48	11	36
警察寮	108	108	0
総数	3,278	5,654	5,706

蓬莱管内には，児童公園として蓬莱西公園（2,000m²），蓬莱東公園（2,700m²），その他3つの公園（計5,000m²）があり，また地区公園として蓬莱中央公園(45,000m²）がある。ここには，野球場（73m×92m），自由広場(64m×95m)が備えられており，その他，自由散歩道，フィールドアスレチックなども設置してある。

また，蓬莱小学校の校庭(11,917m²)，同体育館（880m²），蓬莱東小学校の校庭(19,939m²)，同体育館(1,200m²)，蓬莱中学校の校庭（23,729m²），同体育館（1,075m²）が存在し，これらは授業や課外活動の時間帯以外は一般に開放されており，住民の運動空間は都市に比べると充足している。

また，鉄筋3階建(1,170m²)の公民館を有し，その活動も休みなしの状態であり12の卓球クラブをはじめ，婦人から老人に至るまでの約60のクラブが利用し，活発な文化活動が行われている。しかし，まだ開発途上にある蓬莱町は様々な問題を抱えており，運動空間としての空地は存在するものの，そこにおける整地されたスポーツ施設や指導者等においてはまだまだ不充分な状態であるといえる。

このような環境にあって，住民はどのようなスポーツ意識を抱き，またどのようなスポーツ活動を行っているのかを把握し，以下において若干のC.S政策を展開してみたい。

Ⅱ　各年令層のスポーツ意識，スポーツ活動の実態

まず，各年令層を構成している対象者の職業は表Ⅱ-1の通りである。男子は専門的技術的職業，管理的職業，事務が約60%にも及び，いわゆるホワイトカラーがその大半を占めている。また，女子は約70%が家事労働であり，これは専業主婦と考えられる。これらの職種から夜勤，日勤を問わない限りスポーツ活動は本人の意志に委ねられていることがうかがわれる。

次にスポーツを行うにあたって，その個人の基本的な立場であるスポーツの好き嫌いをみると以下のようになる。

スポーツはあまり好きでない者は男子7.2%，女子14.6%で逆に好きな立場にある者は男子92.8%，女子84.4%[6]と圧倒的な差が現われる。しかし，これを年令層別にみると図Ⅱ-1のように全ての項目において男女とも同じ傾向がみられる。スポーツは行う方が好きという行動派は30代を中心に山型の曲線を示すが，見る方が好きというスペクティター派になると年令が高まるにつれて増加してきている。

また，スポーツは見るのも行うのも好きという者は，女子の50～65才層を除いて男女とも年令が高くなるにつれて減少してきている。逆に，スポーツはあまり好きでないという者は年令が高まるにつれて増加してきている。

以上のことから，年令が高まるにつれてスポーツ離れが増加し，これは同時にスポーツはあまり好きでないという者の出現に結びついている可能性を示している。

次に，スポーツの将来性については表Ⅱ-2の通りで，各年令層間にあまり大きな差はみられない。しかし，「10年後にはスポーツは生活の中で重要な位置を占めてくるようになると思いますか」という項目において，多少ではあるが年令が高まるにつれてその重要性が減少してきている。つまり，高令者にはそれに合ったスポーツ活動が要求され

表II-1　被調査者の職業別人数 M＝180名，F＝192名

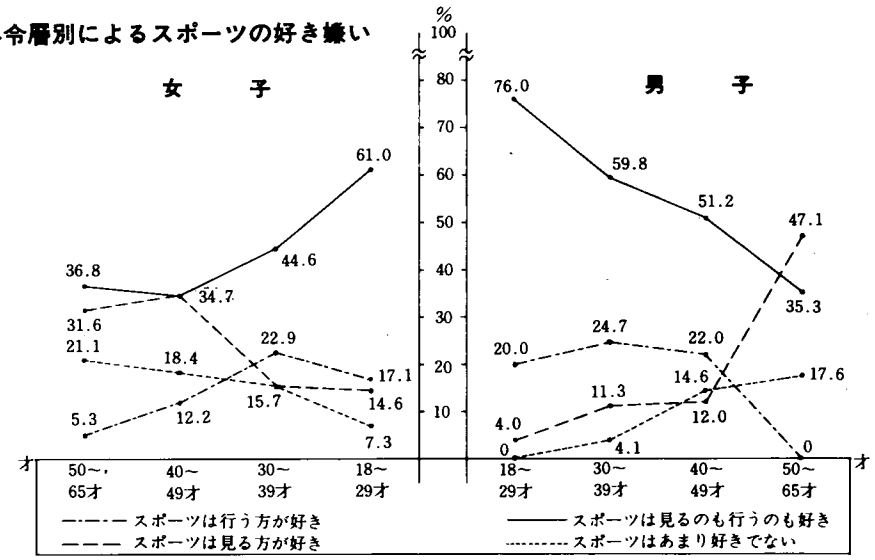
職種＼年令層	人・%＼M・F	18～29才 M	18～29才 F	30～39才 M	30～39才 F	40～49才 M	40～49才 F	50～65才 M	50～65才 F	計 M	計 F
専門的技術的職業	人	5	3	29	6	9	4	3	0	46	13
	%	20.0	7.3	29.9	7.2	22.0	8.2	17.6	0.0	25.6	6.8
管理的職業	人	2	0	16	0	11	2	4	0	33	2
	%	8.0	0.0	16.5	0.0	26.8	4.1	23.5	0.0	18.3	1.0
事務	人	7	4	13	5	7	2	6	0	33	11
	%	28.0	9.8	13.4	6.0	17.1	4.1	32.3	0.0	18.3	5.7
販売	人	5	1	13	0	3	5	0	1	21	7
	%	20.0	2.4	13.4	0.0	7.3	10.2	0.0	5.3	11.7	3.6
農林漁業	人	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1
	%	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.6	0.5
運輸通信	人	1	0	3	0	3	0	2	0	9	0
	%	4.0	0.0	3.1	0.0	7.3	0.0	11.8	0.0	5.0	0.0
技能工，生産工程作業	人	2	0	9	3	4	2	0	1	15	6
	%	8.0	0.0	9.3	3.6	9.8	4.1	0.0	5.3	8.3	3.1
保安職業	人	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0
	%	0.0	0.0	1.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0
サービス業	人	2	0	8	0	3	2	0	0	13	2
	%	8.0	0.0	8.2	0.0	7.3	4.1	0.0	0.0	7.2	1.0
家事労働	人	0	32	0	67	0	29	1	16	1	144
	%	0.0	78.1	0.0	80.7	0.0	59.2	5.9	84.2	0.6	75.0
その他	人	1	0	3	1	0	3	1	0	5	4
	%	4.0	0.0	3.1	1.2	0.0	6.1	5.9	0.0	2.8	2.1
無記不明	人	0	1	1	1	0	0	0	0	1	2
	%	0.0	2.4	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.0

るにもかかわらず，年令が増加するにつれスポーツ活動は不可能という意識が現われてくるものと判断できる。

また，「10年後には土地問題などでスポーツを行う場所は縮少化，減少化の傾向になると思いますか」という項目において，男子は年令層が高くなるに従って肯定的であり，逆に，女子は否定的となり，多少ではあるが男女差が現われている。

以上のようなことから，スポーツの将来性については，10年後の余暇の増加やスポーツ人口の増加に関しては各年令層の男女とも肯定的な立場にあるが，将来の生活設計の中にあるスポーツの位置づけは年令が高まるにつれて薄くなってくるといえる。また，男女間において差は多少みられるものの，不安定な現代社会にあって，今後スポーツを行う空間の縮少化，減少化に対しては各年令層とも肯定的立場と否定的立場が半々を占め，決

図II-1　年令層別によるスポーツの好き嫌い



表II-2　年令層別によるスポーツの将来性　M＝180名，F＝192名

項目	年令層 / M・F / 人・%	18～29才 M 人	18～29才 M %	18～29才 F 人	18～29才 F %	30～39才 M 人	30～39才 M %	30～39才 F 人	30～39才 F %	40～49才 M 人	40～49才 M %	40～49才 F 人	40～49才 F %	50～65才 M 人	50～65才 M %	50～65才 F 人	50～65才 F %
10年後には人々の余暇は増々ふえると思いますか。	ハイ	20	80.0	36	87.8	73	75.3	72	86.7	31	75.6	38	77.6	13	76.5	12	63.2
	イイエ	5	20.0	5	12.2	19	19.6	10	12.0	9	22.0	10	20.4	3	17.6	5	26.3
	無記	0	0.0	0	0.0	5	5.1	1	1.2	1	2.4	1	2.0	1	5.9	2	10.5
10年後には，現在以上にスポーツを行う人々がふえると思いますか。	ハイ	20	80.0	36	87.8	80	82.5	75	90.4	34	82.9	40	81.6	12	70.6	14	73.7
	イイエ	5	20.0	5	12.2	14	14.4	7	8.4	5	12.2	7	14.3	4	23.5	4	21.1
	無記	0	0.0	0	0.0	3	3.1	1	1.2	2	4.9	2	4.1	1	5.9	1	5.3
10年後には，スポーツは生活の中で重要な仕置を占めてくるようになると思いますか。	ハイ	22	88.0	32	78.0	75	77.3	66	79.5	31	75.6	35	71.4	11	64.7	12	63.2
	イイエ	3	12.0	9	22.0	19	19.6	16	19.3	9	22.0	13	26.5	5	29.4	6	31.6
	無記	0	0.0	0	0.0	3	3.1	1	1.2	1	2.4	1	2.0	1	5.9	1	5.3
10年後には，土地問題などでスポーツを行う場所は縮少化，減少化の傾向になると思いますか。	ハイ	10	40.0	21	51.2	50	51.5	44	53.0	22	53.7	20	40.8	9	52.9	8	42.1
	イイエ	15	60.0	20	48.8	44	45.4	37	44.6	17	41.5	28	57.1	7	41.2	10	52.6
	無記	0	0.0	0	0.0	3	3.1	2	2.4	2	4.9	1	2.0	1	5.9	1	5.3

定的な要因にまでは至らない。

次に，スポーツ活動の実態についてみてみると以下のようになる。

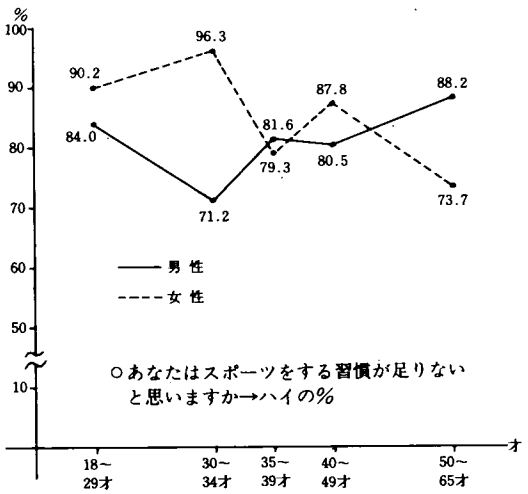
まず，スポーツ活動の習慣についてみてみると図II-2のように，スポーツをする習慣が足りないと思っている者は，男子において低年層と高年層に多く，女子は高年層になるに従って減少してきている。また，30～34才層の男女間に大きな開きがみられ，年令的に男子は最高の活動期であり，女子は育児等によるスポーツ活動への障害期を示しているものといえる。このことは一週間のスポーツ活動時間が０～30分の者をみるとわかるように30～34才層の男女間に大きな開きがみられる（図II-3，表II-3)。

次に，スポーツクラブ所属の有無についてみると図II-4でもわかるように，男子は低年層において所属者が多く，30代後半より非所属者が増加してきている。女子は先のスポーツの習慣化にも現われたように30代前半はスポーツクラブの所属者が少なく，育児等からの解放が始まる30代後半から急に増加している。

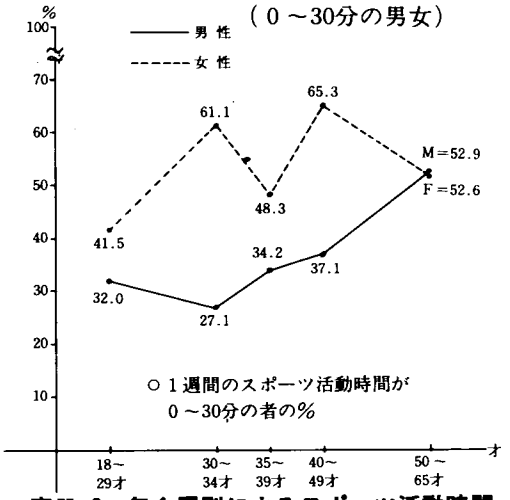
このことは，女子の過去１年間の蓬莱地区のスポーツ行事への参加において，30代後半の参加者が急激に伸びていることからもわかる（図II-5)。

以上から，スポーツ活動における男女間の特徴をみると，男子のスポーツ活動は30代前半を中心にして活動量が多く，年令が高まるにつれてスポ

図II-2　年令層別によるスポーツ活動の習慣



図II-3　年令層別によるスポーツ活動時間
（０～30分の男女）

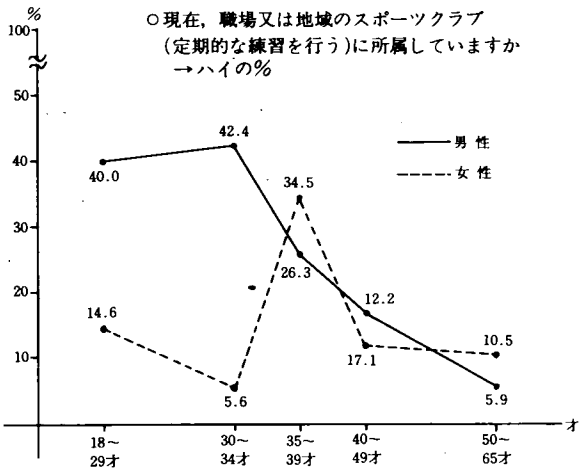


表II-3　年令層別によるスポーツ活動時間

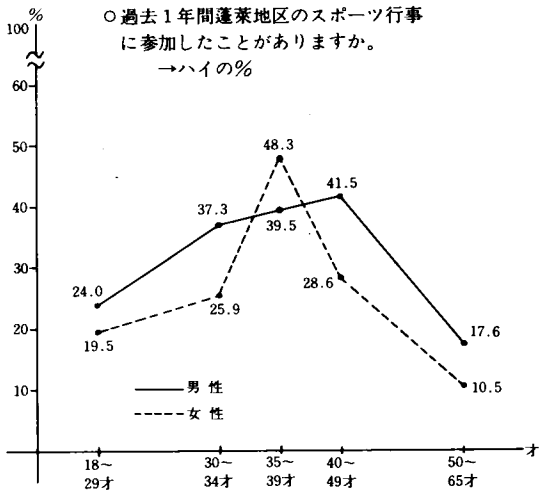
M＝180名，F＝192名

年令	M・F	人・%	0～30分	30～1時間	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上	無記
18～29才	M	人	8	2	6	5	0	2	0	2	0
		%	32.0	8.0	24.0	20.0	0.0	8.0	0.0	8.0	0.0
	F	人	17	7	8	5	1	0	3	0	0
		%	41.5	17.1	19.5	12.2	2.4	0.0	7.3	0.0	0.0
30～39才	M	人	29	12	11	19	12	2	2	8	2
		%	29.9	12.4	11.3	19.6	12.4	2.1	2.1	8.2	2.1
	F	人	47	13	8	3	6	1	1	0	4
		%	56.6	15.7	9.6	3.6	7.2	1.2	1.2	0.0	4.8
40～49才	M	人	13	7	7	3	4	4	1	2	0
		%	37.1	17.1	17.1	7.3	9.8	9.8	2.4	4.9	0.0
	F	人	32	6	5	1	0	0	2	1	2
		%	65.3	12.2	10.2	2.0	0.0	0.0	4.1	2.0	4.1
50～65才	M	人	9	1	4	2	1	0	0	0	0
		%	52.9	5.9	23.5	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	F	人	10	3	1	0	0	0	1	0	4
		%	52.6	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	21.1

図II-4　スポーツクラブ所属の有無



図II-5　年令層別によるスポーツ行事への参加



ーツ活動やスポーツ行事への参加も減少している。また，女子は男子と逆に30代前半においてスポーツ活動が停止し，30代後半でスポーツ活動が活発になり，育児，家事等の影響が表面化している。

III　各年令層に対するコミュニティスポーツ政策

各年令層に対するC.S政策として，各年令層のスポーツ意識，スポーツ活動の実態をベースにしながら，まずスポーツ行動への動機づけとして「スポーツの楽しさやよろこび」を何に求めているか(表III-1)，また「どのようなスポーツクラブへの所属を望むか」(表III-2) ということに対して，それらをスポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者と関係づけながら以下においてC.S政策を展開する。

①　18～29才層に対するC.S政策

18～29才層は男女ともスポーツ意識，スポーツ活動において高い値を示しているが，その反面，地区のスポーツ行事への参加は低く(図II-5)，またスポーツをする習慣の足りなさを感じている者は非常に多い(図II-2)。

しかし，この年令層の男子40.0%の者が地域又は職場のスポーツクラブに所属しており，スポーツ活動への積極性の一面がうかがわれる。

このような特徴を有する年令層にあって，スポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者に対してはどうであろうか。

表III-3の通り，他の年令層と比較して施設面では「少し遠いが本格的なスポーツ施設」を望む者が男子32.0%，女子26.8%と多く，低年層におけるスポーツ活動の本格化が目立つ。

また，指導者に対しては表III-5の通り「ざっくばらんな指導者」で，「安全をモットーとした指導者」を望む一方，この年令層は他の年令層に比べ「集歩をモットーとした指導者」の要求が一番高い。また，男子は「経験をつんだ老練な指導者」を望むが，女子は逆に「元気のよい若い指導者」を望む傾向にある。

次に，スポーツ集団に対しては表III-4の通りで各年令層間に大きな相違はみられないが，男女間において，男子は「年令の様々な集団」を望むが女子は「ほぼ同年令層の集団」を望む傾向にある。

以上から，この年令層に対するC.S政策は，図III-1のように，スポーツ行動への動機づけとして男子では「強制的なスポーツクラブではなく，時には試合を混じえたスポーツクラブ」と同時に「活動量が多く，技術の上達が得られるような内容のプログラム」の提供が考えられる。また，女子では「親子で一緒にできる内容のもので，汗をかいたときの壮快感を味わえるようなプログラム」の提供が考えられる。

また，スポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者に関して特に考慮すべきところは，「本格的なスポーツ施設」と「ある程度技術の進歩を目指してくれる指導者」の提供が考えられる。

②　30～39才層に対するC.S政策

30～39才層は，特に男女間と，30代前半と後半に大きな相違がみられ，なかでも30代前半の男女間の相違は顕著である。このことは，男子は各年令層間で一番のスポーツ活動期であり，女子は育児等によるスポーツ活動への障害期であることを示している。また，逆に30代後半になると男子はスポーツ活動が幾分減少し，女子は大きく伸びてくるという変化がみられる年令層でもある。

このような変化に富む年令層にあって，スポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者に対してはどうであろうか。

スポーツ施設に関しては表III-3の通り男女とも「住居の近くにあるが簡素なスポーツ施設」の要求が他の年令層に比べ高い値を示している。身近かで気軽に楽しめる場所の要求は，スポーツクラブのあり方にも現われてきており，表III-2の通り，「自分の好きな種目で，好きな時にできるスポー

ツクラブ」を望みながら，男女とも「健康維持を目的としたスポーツクラブ」が台頭してきている。特に，女子では「親子で一緒にできるファミリー的なスポーツクラブ」の要求も高い。

また，スポーツ集団に関しては表Ⅲ-4の通り，女子は「同性同志の集団」で「年令の様々な集団」の要求が他の年令層に比べ高い。

また，スポーツ指導者に関しては表Ⅲ-4の通り男女とも「安全をモットーとした指導者」を望む傾向にあり，先の「健康維持を目的としたスポーツクラブ」へと通じるところがうかがわれる。

以上から，この年令層に対するC.S政策は，スポーツ活動の一番多い30代前半の男子と，逆に一番少ない30代前半の女子，そして30代後半からスポーツ活動が減少の傾向にある男子と，逆に急上昇する女子という対照的な年令層にどのように対応していくかということを特に考慮に入れねばならない。

まず，スポーツ行動への動機づけにおいて，男子では[7]「自分の好きな種目で，好きな時にできる」条件のスポーツ環境を設定すると同時に，「チームプレーを通したスポーツ活動の中で，やりとげた満足感，汗をかいたときの壮快感を味わえるような内容のプログラム」の提供が考えられる。また，20代にはあまり顕著でなかった健康維持を目的としたスポーツが除々に現われ，「身近かで気軽にできるスポーツ施設」の提供が考えられる。また，スポーツ集団及びスポーツ指導者では，女子とは逆に「異性混合の集団」で「経験をつみ老練で安全をモットーとした指導者」の提供が望まれる。

③　40～49才層に対するC.S政策

40～49才層はスポーツ意識，スポーツ活動が次第に減少し始める過渡期であり，スポーツ活動の維持という面で非常に重要な時期である。スポーツの好き嫌いにおいて，活動派からスペクティター派への移行時期でもある。

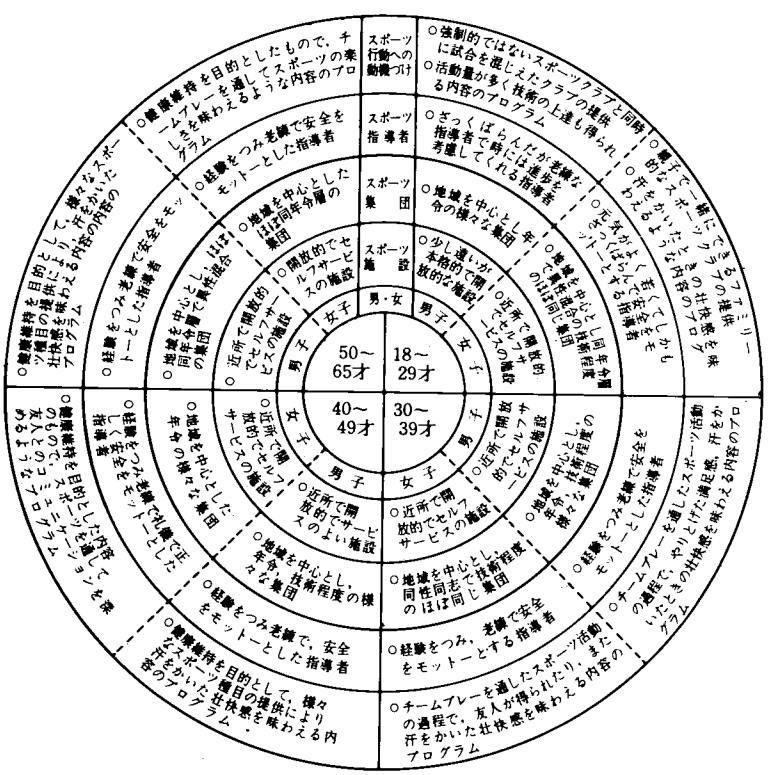
このような過渡期におけるC.S政策として考えられることは，まずスポーツ行動の動機づけにおいて，男子では「様々なスポーツ種目の提供により，その中から汗をかいたときの壮快感を味わえるような内容のプログラム」の提供が考えられる。女子では「健康維持を目的とした内容で，スポーツを通して友人とのコミュニケーションを深めるような内容のプログラム」の提供である。

そして，スポーツ施設に関しては表Ⅲ-3の通り「金はかかるがサービスのよいスポーツ施設」の要求が他の年令層に比べ高く，ただ「開放的で自由に使用できるスポーツ施設」だけでなく「指導の行き届いた施設」の提供が考えられる。

また，スポーツ集団，スポーツ指導者に関しては表Ⅲ-4，5の通り，男女とも顕著な要求はみられないが，健康維持を目的としたスポーツの要求ということから「地域を中心とした集団」で「経験をつみ老練で安全をモットーとした指導者」の提供が考えられる。

この時期はスポーツ意識や

図Ⅲ-1　各年令層に対するコミュニティスポーツ政策



スポーツ活動が次第に減少していくという過渡期にあたることより，単に物質的側面からのC.S政策だけでなく，スポーツの楽しさやよろこびをどのように換起させるかという精神的側面からのC.S政策も要求される。

④　50～65才層に対するC.S政策

50～65才層は，他の年令層に比べスポーツ意識スポーツ活動は一般的に低く，スポーツの好き嫌いにおいても「スポーツはあまり好きでない」者のパーセンテージが一番高くなっている。その現われとして図II-4の通り，スポーツクラブの所属は男子5.9%，女子10.5%と非常に低く，また図II-5の通り，過去1年間蓬莱町におけるスポーツ行事への参加も男子17.6%，女子10.5%と他の年令層に比べ一番低くなっている。

しかし，スポーツの楽しさやよろこびにおいて男女とも「思い切り汗をかいたときの壮快感」は他の年令層に劣らぬ位の高い値を示し，また「全力をつくしてやりとげたという満足感」は他の年令層に比べ一番高い値を示している。また，スポーツクラブへの所属においては男女とも「健康維持を目的としたスポーツクラブ」が他の年令層に比べ一番高い値を示している（表III-2)。

このようなことから，スポーツ行動への動機づけとしては「様々なスポーツ種目を通して，思い切り汗をかいたときの壮快感が得られたり，また全力をつくしてやりとげた満足感が味わえられ，チームプレーの楽しさが実感できる内容のプログラム」の提供が考えられる。

次に，スポーツ施設(表III-3)，スポーツ集団(表III-4)，スポーツ指導者（表III-5）においては「健康維持を目的としたスポーツ」を考えることから「住居の近くにあり，開放的なスポーツ施設」で「地域を中心としたスポーツ集団」に対して「経験をつんだ老練で安全をモットーとした指導者」の提供が考えられる。

このように，50～65才層におけるスポーツ意識，スポーツ活動は全般的に低いが，スポーツに対する楽しさやよろこびなどは確実なものを抱いており，その目的も健康維持に徹していることから，それに合ったスポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者の提供が望まれる。

以上のような，各年令層に対する若干のC.S政策をまとめると図III-1のようになる。これは，スポーツ行動への動機づけから，それに要求されるスポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者の提供を各年令層及び男女別にまとめて示したものであり，掲げた項目は必ずしもその領域で高いパーセンテージを示したものではなく，他の年令層との比較において特に顕著なものも掲載してある。

III　ま　と　め

運動空間として充分なスペースを有する蓬莱町において，住民の全てがスポーツに親しんでいるとは限らず，そこには住民の生活環境から，また個人の内的条件から様々な影響を受けている。本研究（その2）では，特に年令の相違によってスポーツ意識，スポーツ活動はどのように変化していくかを探究し，そこから得られたスポーツ行動への動機づけを，スポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者に関係づけて若干のC.S政策を展開した。

以下，各年令層に対してC.S政策を展開する際に考慮すべき点を挙げる。

まず，18～29才層においては高いスポーツ意識，スポーツ活動に合ったスポーツ施設，スポーツ集団，スポーツ指導者を提供すべきであるが，特に考慮すべき点は「本格的なスポーツ施設をどのように提供させるか」また「技術の獲得をもたらせるような指導者をどのように提供するか」である。

次に，30～39才層であるが，この年令層は30代前半と後半に細分され，特に30代前半の男子はスポーツ活動が他の年令層に比べ一番高く，逆に女子は一番低い値を示している。従って，この年令層の男子には18～29才層に対して行ったC.S政策が要求されるが，女子に対しては単にスポーツ意識の高揚，スポーツ活動の奨励を勧めるだけではなく，その年令層をとり囲いている社会的環境の改善が第1にあげられる。つまり，結婚，出産，育児，家事労働という一連のスポーツ活動への障害物をどのように緩和するかということである[8]。

次に40～49才層であるが，この時期はスポーツ意識，スポーツ活動が次第に減少していく過渡期にあたり，スポーツ活動の継続という面でも非常に重要な時期である。

しかし，この年令層は他の年令層と同様，スポーツの楽しさやよろこびに対しては高い値を示している。従って，スポーツ活動を通してそれらをいかに維持，継続させるかである。そして，スポ

一ツ活動の内容も健康維持を目的としたものを取り入れ，地域を中心としたスポーツ集団の構成により，コミュニケーションを深めるようなC.S政策の展開が要求される。

最後に，50～65才層であるがこの年令層は他の年令層に比べスポーツ意識，スポーツ活動は非常に低い値を示している。このことは，スポーツへの無関心層の増加とも考えられるが，その反面「スポーツをする習慣が足りない」ということを自覚している。

従って，この年令層には健康を目的とした，しかも，仲間とのコミュニケーションを目的としたスポーツプログラムの提供により，積極的に外へ出る習慣を養うことにある。

以上，各年令層に対する若干のC.S政策を述べたが，研究（その１）においては問題となる対象者が限定されたため，C.S政策の展開も明確であった。本研究（その２）においては，４つの年令層からそれぞれのスポーツ意識，スポーツ活動の実態を把握したため，その対象が不明確となりC.S政策の展開に具体性を欠いた。しかし，各年令層又は，男女間における相違が明確に現われ，今後のC.S政策において確かな資料を提供するものとなった。

おわりに，本調査に協力していただいた蓬莱町居住者の方々，及び集計に協力していただいた研究室の学生に感謝の意を表す。

注

(1) 福島大学教育学部論集34号　1982年12月
拙論「コミュニティスポーツに関する一考察」
PP.71～80を参照

(2) 昭和58年７月30日現在の人口である。

(3) 昭和57年７月の調査時における蓬莱町の人口は，11,133人であるが，当時は年令別の人口が算出されておらず，表記した割合は昭和58年７月30日現在のものとの対比である。

(4) 蓬莱管内とは蓬莱町，清水町，田沢町の３町から構成される。

(5) 蓬莱町のみの面積は2.25㎢で，そこを占める世帯数である。

(6) 拙論「前掲書」 P.73

(7)・(8) この年令層の女子に関しては，拙論「前掲書」PP.76～78の「育児，家事労働がスポーツクラブ加入及びスポーツ活動の障害となっている女性に対するC.S政策」を参照。

参考文献

体育社会学研究会編
「コミュニティ・スポーツの課題」 道和書院 1975

沢登貞行，村上克己　共著
「コミュニティ・スポーツへの挑戦」
不昧堂出版　1980

地方自治研究資料センター編
「コミュニティづくり続本」　第１法規　1980

表Ⅲ-1　年令層別によるスポーツの楽しさ，よろこび　　M＝180名，F＝192名

項目 ＼ 年令層	18～29才				30～39才				40～49才				50～59才			
M・F	M		F		M		F		M		F		M		F	
人,%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全力を尽くしてやりとげたという満足感	3	7.0	5	7.6	25	17.0	20	14.8	10	15.9	14	20.6	7	29.2	5	18.5
思い切り汗をかいたときの壮快感	18	41.9	33	50.0	55	37.4	52	38.5	28	44.4	22	32.3	10	41.7	6	22.2
スポーツ後の飲食	0	0.0	0	0.0	9	6.1	2	1.5	5	7.9	1	1.5	2	8.3	2	7.4
友人が得られる	1	2.3	8	12.1	7	4.8	19	14.1	7	11.1	10	14.7	0	0.0	0	0.0
日常生活からの逃避	1	2.3	3	4.5	5	3.4	10	7.4	2	3.2	2	2.9	1	4.2	2	7.4
相手に勝ったときの歓び	1	2.3	3	4.5	8	5.4	4	3.0	2	3.2	3	4.4	0	0.0	0	0.0
相手との競争	2	4.7	0	0.0	5	3.4	2	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7
仲間との協力(チームプレー)	9	20.9	8	12.1	20	13.6	16	11.9	9	14.3	10	14.7	3	12.5	5	18.5
技術の上達	7	16.3	4	6.1	7	4.8	4	3.0	1	1.6	2	2.9	0	0.0	1	3.7
記録の向上	0	0.0	0	0.0	3	2.0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	2	3.0	1	0.7	3	2.2	0	0.0	2	2.9	0	0.0	1	3.7
無記不明	1	2.3	0	0.0	2	1.4	3	2.2	0	0.0	2	2.9	1	4.2	4	14.8

表Ⅲ-2　年令層別によるスポーツクラブの性格　　M＝180名，F＝192名

項目 ＼ 年令層	18～29才				30～39才				40～49才				50～65才				計			
M・F	M		F		M		F		M		F		M		F		M		F	
人，%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
自分の好きな種目で，好きな時にできる（強制的でない）スポーツクラブ	12	48.0	10	24.4	28	28.9	16	19.3	15	36.6	14	28.6	4	23.5	1	5.3	59	32.8	41	21.4
試合を中心としない，チーム仲間との交流を目的としたレクリエーション的なスポーツクラブ	3	12.0	7	17.1	18	18.6	11	13.3	3	7.3	3	6.1	1	5.9	2	10.5	25	13.9	23	12.0
試合を中心とした（定期的な練習を要求）スポーツクラブ	5	20.0	2	4.9	7	7.2	2	2.4	3	7.3	1	2.0	0	0.0	0	0.0	15	8.3	5	2.6
健康維持を目的としたスポーツクラブ	3	12.0	5	12.2	20	20.6	25	30.1	12	29.3	20	40.8	6	32.3	8	42.1	41	22.8	58	30.2
親子で一緒にできるファミリー的なスポーツクラブ	2	8.0	16	39.0	17	17.5	23	27.7	4	9.8	3	6.1	0	0.0	1	5.3	23	12.8	43	22.4
その他	0	0.0	0	0.0	3	3.1	0	0.0	2	4.9	1	2.0	0	0.0	0	0.0	5	2.8	1	0.5
無記不明	0	0.0	1	2.4	4	4.1	6	7.2	2	4.9	7	14.3	6	32.3	7	36.8	12	6.7	21	10.9

表Ⅲ-3　年令層別による希望するスポーツ施設　　M＝180名，F＝192名

項目 ＼ 年令層	18～29才				30～39才				40～49才				50～65才			
M・F	M		F		M		F		M		F		M		F	
人，%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
住居の近くにあるが簡素なスポーツ施設	14	56.0	28	68.3	68	70.1	72	86.7	27	65.8	34	69.4	10	58.8	6	31.6
少し違いが本格的なスポーツ施設	8	32.0	11	26.8	14	14.4	8	9.6	10	24.4	7	14.3	4	23.5	4	21.1
無記不明	3	12.0	2	4.9	15	15.5	3	3.6	4	9.8	8	16.3	3	17.6	9	47.4
金はかかるがサービスのよいスポーツ施設	1	4.0	1	2.4	6	6.2	3	3.6	5	12.2	4	8.2	2	11.8	2	10.5
金はかからないがセルフサービスのスポーツ施設	22	88.0	38	92.7	79	81.4	76	91.6	32	78.0	37	75.5	11	64.7	8	42.1
無記不明	2	8.0	2	4.9	12	12.4	4	4.8	4	9.8	8	16.3	4	23.5	9	47.4
会員制で豪華な気分を味わえるスポーツ施設	1	4.0	1	2.4	4	4.1	2	2.4	1	2.4	2	4.1	1	5.9	0	0.0
開放的で手続きなどいらないスポーツ施設	23	92.0	39	95.1	82	84.5	77	92.8	37	90.2	40	81.6	11	64.7	11	57.9
無記不明	1	4.0	1	2.4	11	11.3	4	4.8	3	7.3	7	14.3	5	29.4	8	42.1

表Ⅲ-4　年令層別による希望するスポーツ集団　　M＝180名，F＝192名

項目 ＼ 年令層	18～29才				30～39才				40～49才				50～65才			
M・F	M		F		M		F		M		F		M		F	
人，%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
同性同志の集団	11	44.0	11	26.8	35	36.1	44	53.0	16	39.0	18	36.7	2	11.8	5	26.3
異性混合の集団	12	48.0	28	68.3	47	48.4	29	34.9	19	46.3	17	34.7	6	35.3	4	21.1
無記不明	2	8.0	2	4.9	15	15.5	10	12.1	6	14.6	14	28.6	9	52.9	10	52.6
職域を中心とした集団	9	36.0	7	17.1	28	28.9	7	8.4	7	17.1	2	4.1	0	0.0	1	5.3
地域を中心とした集団	14	56.0	32	78.0	55	56.7	66	79.5	29	70.7	35	71.4	8	47.1	7	36.8
無記不明	2	8.0	2	4.9	14	14.4	10	12.1	5	12.2	12	24.5	9	52.9	11	57.9
ほぼ同年令層の集団	12	48.0	25	61.0	24	24.7	35	42.2	6	14.6	17	34.7	5	29.4	10	52.6
年令の様々な集団	13	52.0	15	36.6	62	63.9	40	48.2	30	73.2	23	46.9	4	23.5	4	21.1
無記不明	0	0.0	1	2.4	11	11.3	8	9.6	5	12.2	9	18.4	8	47.1	5	26.3
技術程度のほぼ同じ集団	11	44.0	22	53.7	37	38.1	43	51.8	14	34.1	19	38.8	4	23.5	5	26.3
技術程度の様々な集団	12	48.0	17	41.5	44	45.4	32	38.6	21	51.2	16	32.7	4	23.5	4	21.1
無記不明	2	8.0	2	4.9	16	16.5	8	9.6	6	14.6	14	28.6	9	52.9	10	52.6

表Ⅲ-5　年令層別による希望するスポーツ指導者　　M＝180名，F＝192名

項目 ＼ 年令層	18 ～ 29才				30 ～ 39才				40 ～ 49才				50 ～ 65才			
M・F	M		F		M		F		M		F		M		F	
人，%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
礼儀正しい指導者	4	16.0	11	26.8	41	42.3	34	41.0	16	39.0	21	42.9	5	29.4	7	36.8
ざっくばらんな指導者	19	76.0	28	68.3	47	48.4	47	56.6	20	48.8	19	38.8	7	41.2	6	31.6
無記不明	2	8.0	2	4.9	9	9.3	2	2.4	5	12.2	9	18.4	5	29.4	6	31.6
安全をモットーとした指導者	12	48.0	28	68.3	60	61.9	65	78.3	25	61.0	27	55.1	12	70.6	8	42.1
進歩をモットーとした指導者	9	36.0	11	26.8	27	27.8	15	18.1	10	24.4	10	20.4	2	11.8	3	15.8
無記不明	4	16.0	2	4.9	10	10.3	3	3.6	6	14.6	12	24.5	3	17.6	8	42.1
元気のよい若い指導者	9	36.0	27	65.9	30	30.9	35	42.2	11	26.8	14	28.6	6	35.3	2	10.5
経験をつんだ老練な指導者	14	56.0	12	29.3	57	58.8	44	53.0	25	61.0	23	46.9	7	41.2	11	57.9
無記不明	2	8.0	2	4.9	10	10.3	4	4.8	5	12.2	12	24.5	4	23.5	6	31.6

A Study of Community Sports (II)

with Special Reference to the Relation between the Age and the Policy

Shûichi　ARAYA

The present paper discusses the policy of community sports mainly referring to the sports facilities, the grouping of the inhabitants and the sport instructors. The aim of this paper is to classify the inhabitants into four groups according to their age and to propose a suitable policy for each group. The inhabitants referred to in this paper are classified as follows :

[A]　18-29 years old　　[B]　30-39 years old

[C]　40-49 years old　　[D]　50-65 years old

A Proposal in the Case of [A]

To offer full-scale sport facilities and the sport instructors who can give technical guidance.

A Proposal in the Case of [B]

To offer the sport facilities which can be used without much procedure in their neighbourhood and the instructors of experience who take safety into consideration rather than technical progress.

A Proposal in the Case of [C]

To offer sport facilities with attentive service, the organization of the group with their neighbours and the instructors mentioned in the case of [B]

A Proposal in the Case of [D]

To offer the sport facilities which can be almost always used without any procedure in their neighbourhood in addition to the organization of the group and the instructors mentioned in tne case of [C].